

平成30年度 第12回教育委員会定例会

議決事項

件名	提案理由	審議の状況	採決の次第
<p>報告第2号 学校施設環境改善交付金に係る施設整備計画の事後評価について</p>	<p>国庫補助金による施設整備計画の事後評価について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>議案第3号 平成31年度『垂水市の教育』基本方針について</p>	<p>平成30年度垂水市の教育行政の運営に関する基本方針を定めようとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>承認</p>
<p>議案第4号 垂水市学校薬剤師の委嘱について</p>	<p>平成31年度垂水市学校薬剤師を委嘱しようとするものである。 (任期) 学校薬剤師：1年</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>承認</p>
<p>議案第5号 垂水市文化財の指定について</p>	<p>垂水人形を垂水市指定文化財として指定することで、保護し後世へ伝えようとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>承認</p>
<p>議案第6号 垂水市社会教育指導員の任命について</p>	<p>社会教育指導員を任命しようとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>承認</p>
<p>議案第7号 垂水市青少年育成センター相談員の委嘱について</p>	<p>青少年育成センター相談員を任命しようとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>承認</p>

平成30年度 第 12 回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出席者	
<p>平成31年3月11日（月）</p> <p>午後2時00分</p> <p>↓</p> <p>午後4時00分</p> <p>第2研修室</p>	<p>教育長 坂元 裕人</p> <p>教育委員 野村 繼治</p> <p>教育委員 田原 正人</p> <p>教育委員 葛迫 幸平</p> <p>教育委員 田之上 厚美</p>	<p>教育総務課長 紺屋 昭男</p> <p>学校教育課長 明石 浩久</p> <p>社会教育課長 野嶋 正人</p>

# 会 議 要 旨

## 1 開 会

定刻、定足数に達しており、平成30年度第12回教育委員会定例会を開会した。  
議案第3号、第4号、第6号、第7号の議案4件は非公開で審議する旨、教育長から  
発議があり、全会一致で議決された。

## 2 平成30年度第11回定例会会議録の承認

承認

## 3 議 事

- 報告第 2 号 学校施設環境改善交付金に係る施設整備計画の事後評価について
- 議案第 3 号 平成 31 年度『垂水市の教育』基本方針について
- 議案第 4 号 垂水市学校薬剤師の委嘱について
- 議案第 5 号 垂水市文化財の指定について
- 議案第 6 号 垂水市社会教育指導員の任命について
- 議案第 7 号 垂水市青少年育成センター相談員の委嘱について

## 4 その他

## 5 委員並びに教育長及び課長報告

## 6 閉 会

議事内容等

3 議 事	報告第 2 号
教育総務課長	<p>学校施設環境改善交付金に係る施設整備計画の事後評価について          学校施設環境改善交付金に係る施設整備計画の事後評価について、その内容を報告した。</p>
野村委員	<p>学校に先般訪問したが、外壁はきれいになっているが校舎内はだいぶ古びている。校舎内の整備についてはどのように考えているか。</p>
教育総務課長	<p>校舎内の整備については、平成 31 年度に策定する「学校施設長寿命化計画」を基に、年次的に整備していく方向だ。</p>
田原委員	<p>先般訪問したときに、廊下に水溜りが見受けられた。雨漏りなのかどうなのか原因は分からないが、子どもたちが走ったりしたときに、滑って怪我をする恐れがあるのではないか。</p>
教育総務課長	<p>廊下の水溜りについては、原因を探り、どのように対処していくか検討する。</p>
教育総務課長	<p>議案第 3 号          平成 31 年度『垂水市の教育』基本方針について          平成31年度垂水市の教育行政の運営に関する基本方針を定めようとする          ことについて、その内容を説明。</p>
教育長	<p>本市の教育施策の方向性を修正したことについて学校教育課長に説明を          求める。</p>
学校教育課長	<p>教育施策の方向性などについては、現行の学習指導要領で作成されてい          たため、新学習指導要領を参考に一部修正したものだ。</p>
教育長	<p>事業内容等については、予算化されているのか。</p>
教育総務課長	<p>当初予算で承認された事業及び、6月補正予算で見込みがあるものを掲          載しているものだ。</p>
野村委員	<p>夢の翼事業については、まだ予算化されていないとのことだが、たいへ          ん良かったと聞いている。今年度 10 人の派遣であったが、今後派遣生徒を          増やすなど充実させていければと思うがどう考えるか。</p>
学校教育課長	<p>平成 30 年度は 15 人の派遣要望を行ったが、10 人の派遣となった。平成          31 年度も 6 月補正での予算計上を行うこととしているが、平成 30 年度と          同額の予算規模となるのではないかと予想される。研修時期についても、          1 月が最も航空運賃が安い時期でもあり、気候も温暖であることから 1 月          に実施したいと考える。</p>

教育長	異議がないので、議案第 3 号は承認する。
	議案第 4 号 平成 31 年度垂水市学校薬剤師の委嘱について (非公開)
社会教育課長	議案第 5 号 垂水市文化財の指定について 垂水人形を垂水市指定文化財として指定することにより、保護し、後世へ伝えようとする事について、その内容を説明。
野村委員	伝承者は亡くなられたとのことであるが、今垂水人形を作る方はいないということか。
社会教育課長	亡くなった方のお弟子さんが垂水におり、同好会数名で垂水人形を作成している。先般開催された「春を呼ぶ垂水土人形展」にも新しい作品が出品されていた。
野村委員	今回は、この 7 点の垂水人形のみが文化財指定されるということか。
社会教育課長	そのとおりだ。
葛迫委員	この 7 点の垂水人形はいつ頃作られたものか。
社会教育課長	作成された年代は、実際分からないところだ。
葛迫委員	文化財指定の理由の中で、胡粉とあるが、「にかわ」など具体的なものが成分として使われていると思うことから、具体的な文言も入れたほうが良いと思うがどうか。
社会教育課長	文化財審議委員の方々に今回提案があったことを相談したい。
教育長	異議がないので、議案第 5 号は承認する。
	議案第 6 号 垂水市社会教育指導員の任命について (非公開)
	議案第 7 号 垂水市青少年育成センター相談員の委嘱について (非公開)

4 その他	なし
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告
教育長	委員並びに教育長及び課長の報告に入る。
野村委員	<p>1. 「詩文集「たるみず」について」</p> <p>今年も、市内の小中高校生が書いた「詩文集「たるみず」第53号」をいただいた。</p> <p>なかなか読みやすく、立派なものできたと思う。表紙の絵も明るく、夢のある生き生きとしたイメージを与えるもので、つい見入ってしまい、さわやかですがすがしい気持ちになり、内容ともに「素晴らしい」の一言である。</p> <p>高校生は、俳句部門だけの参加のため、更に詩や文章にまで広がっていけばと思っている。</p> <p>全体を通して、児童・生徒の純朴な気持ちや感性が、生き生きと表現されていて、「文字や文章は、その人自身の姿や心を表す。」というが、まさにそのとおりであり、このような形で身の回りの出来事を、また自分の気持ちのあり方を書き付けることで、子どもたちの感性が、「その時その時の体験を追って成長していくのだ。」ということが感じ取れた。自分が体験した事実に基づいて語られる文章は、説得力があり、読む人の心を深く捉えるものである。</p> <p>また、坂元教育長の巻頭文にもあったように、日常生活の中で思いをめぐらす時間を作って、じっくりと生活のひとこま、ひとこまを振り返り、自分の心が捉えた価値ある出来事、その感動の体験についてしっかりと気付くことが大事であるということで、このことは、まさに我々大人たちにも、そのまま当てはまる事実であると思った。田畑指導主事をはじめ、市内各小中学校の編集委員の先生方の苦勞を思うことであった。</p>
田原委員	<p>1. 「垂水小学校の国語科研究公開について」</p> <p>2月19日（火）、垂水小学校で国語科の研究公開があり参加した。</p> <p>「読解力を高め、伝え合う力を育む学習指導のあり方」というテーマの中、4年生の授業を最後まで通して参観した。なぜかという、子どもたちの活発な議論が見られ、その結果がグループでの要約文となるころに興味を持ったからである。</p> <p>1時間の授業であるために、長い期間をかけて、あらゆる子どもの反応を予想して手立てが講じられている点など、先生方の取組みに感心した。</p>

教材は、ウナギの産卵場所を見つけるまでの研究経過を探る文章であったが、答えは一つになるはずが、グループでの表現の仕方により、全く同じにならないところが面白いと思った。研究課題にもあったが、伝える力は、より深い読み取りによって彩りされるのであろうし、また伝え合うことで、自分の読み取る力を鍛えることにつながるのだろうと思った。「これが新しい授業の形なのか。」と感心しながら参観することだった。

## 2. 「垂水高校卒業式について」

3月1日（金）、垂水高校の卒業式に出席した。

春の穏やかな日差しの中、厳かであり、また心温まる雰囲気の中で卒業生の態度は立派であった。

今年はさらに、女性校長先生の式辞、女性の県教育委員会の告辞、女性のPTA会長の祝辞、女子生徒の卒業生答辞と、女性ぞろいで全体として温かく細やかで、優しい内容であったのが式典に華を添えた気がした。

卒業生は、垂水の地で青春を謳歌できたことに感謝し、それぞれの道で頑張ってもらいたいと思った。

## 3. 「ある朝の出来事について」

3月6日（水）、朝8時30分、出勤途中の橋の上で、対向してきた軽自動車のおばあちゃんが、窓を開けて手を挙げられた。

「何事か。」と止まったら、「垂水高校はどちらですか。もう時間がなくなってきている。」と言われた。

車の中には受験生らしい生徒が乗っていて、すぐさま、「私の後についてきてください。そこまで案内にします。」と言って、垂水高校のグランド駐車場まで案内した。

到着後すぐに案内した車のおばあちゃんが降りてきて最敬礼をされ、受験生は急いで校門のほうへ駆けていった。時刻は8時40分。間に合っよかった。

かねては、その道は通らないが、今日は途中のポストに投函したので、たまたまこの橋を通ったところであった。

葛迫委員

## 1. 「垂水街角美術館オープニングセレモニーについて」

2月17日（日）、垂水街角美術館のオープニングセレモニーがあった。

まず、垂水街角美術館とはどういうものかということであるが、垂水市は「瀬戸口藤吉」「和田英作」といった著名な芸術家を輩出した文化のまちと謳っている。

垂水街角美術館は、この二人の功績を形に残し、文化の香りを市民の皆様にも味わっていただきたいという想いで、本来、美術館というと、「箱もの」という観念があるが、その考えを否定するのではなく、常に存在する空間、空き店舗又は空き家ではなく、そこにはいつも人がいて、生活している店舗ならば美術館を守ることができる。そして、年間を通して作品を鑑賞することができる空間が作れ、それは商店街の中にある小さくてもいい、大きくてもいい、今あるお店ということであり、その商店に美術作品を展示する場所を作ってもらい、美術作品を鑑賞できるようにする。そして、

市内外の人に美術作品を鑑賞し、肌で感じてほしいという想いから始めた。

現在、八木酒店、井之上電機、レブロン美容室、中村落花生本舗、さかやフレンズ、ホテルアザレア、喫茶40、川畑瓦工業の8店舗でオープンした。4月からは、北方ファミリーマートが加わり、9店舗で美術作品が鑑賞できる状態になる予定である。

同日には、5月19日まで開催の「葛迫幸平展」の展示会のオープニングセレモニーを、喫茶40の店舗前広場で100名ほどの来客者のもと開催することができた。

来賓として、坂元教育長、西尾文化協会会長、橋口垂水地区公民館長、柘原小学校の仲村校長先生と児童を招待した。会場の喫茶40のある錦町は、柘原小学校区ということで、柘原小学校の児童を招待したのだが、参加した6名の児童のほか、柘原小学校の全児童19名に、「魔法の鉛筆」を贈呈することができた。その鉛筆は、私がパリの生活の中で使っていた鉛筆で、少しでもパリの匂いを感じて絵を描いてほしい、勉強に使ってほしいとの思いがあって贈呈した。

オープニングのテープカット後、店舗外では毎月第3日曜日に開催されるマルシェがオープンし、店舗内では絵画を鑑賞しながら垂水街角美術館長やギャラリー責任者、招待者、観覧者、そして報道関係ではMBCテレビや南日本新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、南九州新聞社の記者の方たちと、コーヒーを味わいながら、美術談義が1時間ほどあり、盛り上がったことに感動した。

今後も、春と秋の年2回の企画展を開催できればと考えている。垂水街角美術館が、新しい機知に富んだ街づくり、子どもたちの人間形成に繋がってくれればと思うことであった。

田之上委員

#### 1. 「垂水飛龍太鼓30周年記念公演「鼓響」について」

3月3日(日)、飛龍太鼓30周年事業を鑑賞した。

公演の最初は、新城子ども園のかわいいダンスに始まり、新城神貫太鼓、よさこい桜輝楽のよさこい踊り、また市外からは、宮崎県佐土原町の佐土原久峰太鼓、琉球國祭り太鼓においてはセミプロ的な感じで、とても充実した内容であった。

飛龍太鼓が始動し、もう30年も経つのだなあと思うとともに、本市の様々な行事になくってはならない、いつでも参加してくださる団体で、ありがたい、今後も活躍して行ってほしいと思った。

メンバーに若い世代の方々も参加していて、頼もしいなあと思うことであった。

#### 2. 「学校評議員会に参加したことについて」

先日、垂水中央中学校の学校評議員会に出席した。

学校では、真剣に授業に向き合う子どもたちの姿、体育館では元気に走り回っている姿を見ることができた。残り少ない学年の終わりの時期を落ち着いて過ごしているように感じた。

会の中で香港研修についての話題もあり、成果がすぐに出るものではないが、今後も続けてほしいという意見や、子どもたちに同行される先生方



教育長

の負担などについて、評議員より意見が出された。

3年生は既に半数ぐらいは私立高校への進学を決めた生徒もいたが、その他の生徒は公立高校入試を控え、問題に真剣に取り組んでいた。試験も終わりほっとした生徒やこれから受験する生徒それぞれが、無事に卒業式を迎え、力を出し切った子どもたちそれぞれに、合格の知らせが届いてほしいと願うことであった。

#### 1. 「若草文学賞授賞式に参加したことについて」

3月2日(土)、文化協会主催の若草文学賞の授賞式に参加した。

テーマが「夢」ということで、90点の応募があり19名の子どもたちがグランプリや最優秀賞、優秀賞、推薦を受賞し、学校賞は水之上小学校が受賞した。

それぞれの作品には味があり、また発達の段階が見えて、「おもしろいなあ」と思いながら、まさに「夢」を描きながら読ませていただいた。

それぞれの作品には、子どもたちの感性が見え、おもしろい表現などしている点など興味深かった。特に低学年になればなるほど、夢がでっかくなるし、学年が上がれば上がるほど、これからの仕事に結びつくようであった。

それぞれの子どもたちが夢を追いかけていく過程を支えていくのが学校や教育委員会であると思う。是非子どもたちが夢を持って、一生懸命頑張っていてほしいとエールを送りたい。

#### 2. 「第4回垂水カップフェンシング競技大会について」

3月2日(土)～3日(日)に第4回垂水カップフェンシング競技大会が、市の体育館で開催され出席した。

今回は、中学生から高校、一般の選手による団体戦であった。個人戦に比べて団体戦は、まさにチームワークであり、違う雰囲気の中で熱戦が展開された。

社会教育課職員はほぼ全員、その他教育委員会の職員で運営にあたったが、運営についての課題がだいぶ見えるとともに、今後の大会に自信を持って取り組める部分も見えてきて、次の大会につながる良い運営ができたのではないかと思えた。

表彰では、地元のカンパチやブリを贈呈し、非常に好評であった。今後は、12月の全日本選手権の前にも大会を開催する予定であるので、委員の方々も是非観戦願いたいと思っている。

#### 3. 「東日本大震災について」

3月11日(月)、本日は、先ほど黙祷を捧げたが、2011年3月11日に東日本大震災が発生し、いまだに52,000人の方々が仮設住宅などに避難されている状況である。まだまだ、「完全復興にはいたっていないのだなあ」とテレビを観ながら思うことだった。

やはり復興には時間がかかるのだが、時間をかけても消えない心の痛みがあるのだと、さまざまなことを思う一日であった。

22,100名を越える方々が亡くなられた現実を考えると、いつどこで起き

るか分からないということを常に考えながら、我々は子どもたちの命を守るべく、教育行政を進めていかななくてはと改めて思うとともに、「判断の誤りがとんでもない事態を生むこととなる。」ということ、肝に銘じることであった。

教育総務課長  
学校教育課長  
社会教育課長

2月13日から3月11日までの主な行事等について報告。  
併せて、4月9日までの行事予定についてお知らせした。

6 閉 会